

ある悲しそうな女性を、あるクリスチャンが教会へ誘いました。女性は教会へ通うようになり、聖書を読みました。人生は変わりませんでした。そこで、神学校での仕事を紹介され、いつも神様に近い環境に身をおきましたが、やはり変わることはありませんでした。この女性は現状の中で幸せの探したので、自分が変わることを望んでいませんでした。一方、同じような境遇のホテルの掃除婦の女性がいました。彼女もまた教会に通いました。掃除婦の女性は環境を変えたのではありませんでしたが、自分の仕事に対する見方が変わったので仕事が楽しくなりました。他の人が気づかない場所まで喜んで掃除をするようになり、人生が変わりました。2人とも同様に孤独に悲しみ、生きてきた女性でしたが、求めるものが違ったのです。

①愛に生きる

イエス様のように自然に生きる

自然の中で共に生かされている全てのものがお互いを愛することは自然な行為です。自然界の中では当たり前前の行為が、自然の営みから離れて勝手に生きるようになった人間にとっては自然でなくなりました。動物達は自らが生きるために必要な以上に殺したりしません。しかし、人間は不足を感じ、不安と恐れから、自分のために蓄えようとします。自己中心的な生き方はまるで貪欲な獣のようで、それによっていつも争っています。「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなた方の父がこれを養ってくださるのです。…あなた方の父は、それがあなた方に必要なことを知っておられます。だから、神の国と義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。だから、あすのための心配は無用です。」(マタイ 6:26～33) 不足に目が向き、不安を感じた時には、このように自然の中の被造物を見ましょう。いつも変わることのない摂理によって生かされていることを知り、全てを創造された神様の偉大さを感じることが出来ます。恐れも不安も憎しみもなく、自分を偽ることもなく、自然に生きていけば人間も同じように神様の偉大さをあらわすことができる被造物のひとつです。「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は私たちが良い行いに歩むように、そのよい行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」(エペソ 2:10) よい行いができなるとすれば、心の中に自然でない部分があるからです。私達の心が神様から離れると、自らの力に頼り、自らを守ろうとする自己中心な生き方になります。例えば鎧を着て、刀を持って人に向かって行くと相手はどうなるのでしょうか。相手に構えるので傷つけあうことになります。

主観とは

日本は無宗教で、人の造ったものによって安心を得てきた文化です。日本人が求めているのは安心・安全です。安全はお金で買えます。例えば高機能な車、お金があれば手に入ります。保険に入ったり、お守りを持つことで安心も手に入れることができます。しかし、平安は神様からしか与えられません。環境が安全でなかろうと、安心できる要素がなかろうと、どんなことがあっても大丈夫と信じることのできるのが平安です。神様に似て造られた私達は、両親のもとに生まれ、その環境の中で影響を受けて育ちます。人間の価値観はDNAで決まるものではありません。同じDNAを持つ一卵性双生児でも育つ環境を変えれ

ば、違う価値観に育ちます。自然な価値観とは違う、環境によって作られた不自然な価値観、これが主観となっていきます。主観によって判断する、それによって起こったこと、人のせいでしょうか。心にささやく悪い声のせいでしょうか。その主観によって判断した自分のせいなのです。聖書の平安は世の中の価値観とは違うので、世の価値観によって作られた主観によってでは理解できません。もし私達の願う幸せが世の価値観(主観)によるのなら、冒頭の女性のように幸せを見出すことができないのです。

三つ燃りの糸は簡単には切れない

私達の人生を悪くしようと働く力は、私達を1人にさせようとします。「私は孤独だ」、「私はどうせ捨てられる」そんな価値観を持って1人で戦おうとしていませんか。「ふたりでも3人でもわたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」(マタイ 18:20) 人の間に神の存在がなければ人は結ばれることはありません。人々の間に神様がいないことはとても不自然なことです。聖書の教える平安はひとつなので、信じる者は心がひとつになり、平安を強く保つことができます。

祈りの生活の回復

私達は問題が起こるとそこから逃げようとします。たとえ問題ばかりでも、その与えられた環境の中で平安を見つけ出すしか解決はありません。その環境から逃げても、穴を掘って埋めた地雷のようなもので、いつかまた問題となります。自分の代でなくても、継承された主観で生きる子々孫々がいつかその地雷を踏むことでしょう。カンボジアの地雷は戦争時に敵国の兵を攻撃するために埋められました。しかし、戦争が終わって苦しんでいるのは、埋めた当人の子ども達です。おかれた環境が逃げたいほど苦しくて辛いなら、平安を求めて祈りましょう。「神は真実な方ですから、あなたがたを耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。」(1コリント 10:13)

②逃げるな!!

イエス様を裏切ったペテロは、イエス様の死後、熱心に布教活動を行います。ローマで投獄されますが、逃げる機会を得ます。逃げていた時にイエス様の幻に出会い、悔い改め、殉教を受け入れました。何度も失敗して逃げたペテロですが、イエス様の幻に平安を得、死ですら恐れるものではなくなったのです。誰でも逃げたくなることがあります。どんなに悪い状況でも神様はいつも私達を守ってくれています。悪い状況の中でも神様から離れなければ平安は必ず得られます。そして、価値観が変われば今まで不幸だと思っていたことでさえ、幸せに変わることがあります。主観が聖書の価値観に変われば私達の歩みは変わります。

愛によってひとつに

愛という方法で私達が価値観をひとつにすることができれば、思いをひとつに目的を果たすことができるとでしょう。愛以外の方法で価値観がひとつになってもそれはいつか壊れます。「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ 13:34) 私達が神様の価値観とひとつでいられますように。自分が中心になろうとして、罪に支配される不自然な生き方ではなく、神様の価値観に生きる自然な生き方を選ぶことができますように。